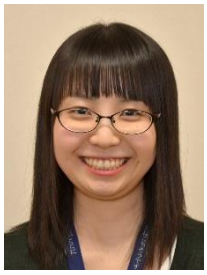
地域の若者をつなぐきっかけの場づくり

～若者が住み続けたいと思えるまちを目指して～



北海道美幌町　石川　晴香

１　はじめに

美幌町では、自然減・社会減による人口減少が進んでおり、特に若い世代の転出が多い状況である。しかしながら、転出超過となっている一方で、20 代前半においては町外出身者の転入も多い。このように、地元出身者と町外出身者が入り混じっていることと転出入が多いことが若い世代の人口移動の特徴となっている。

平成 30 年 7 月に実施された美幌町民まちづくりアンケート及び中高生アンケートの結果を見ると、若い世代ほど定住意向が弱い傾向にある。その理由として、地域の生活に対する不安や若者が楽しめる場が少ないことなどが挙げられている。

これらのことから、若い世代の定住を促進するにあたっては、今住んでいる若者が住み続けたいと思える環境づくりに向けた取組が必要であると考える。地域の若者が気軽に集って楽しく交流できる場を設けることで、地域の中での助け合いにつながる関係性を育みながら心豊かに過ごすことができ、この町に住み続けたいという思いを強めることができるのではないだろうか。また、若者が地域でのつながりをひろげていくなかで、様々な地域資源とつながり、新たな発想や活動が生まれることも考えられる。

そこで、本稿では町内の若い世代を対象に実施した Web アンケート調査の結果から若者のコミュニティの現状を明らかにし、地域の若者をつなぐための取組について検討する。

２　美幌町の現状と課題

（１）人口動態の状況

美幌町の人口は昭和 60 年の 26,686 人をピークに減少傾向に転じ、自然減・社会減により現在までその傾向が続いている。令和元年 11 月末現在の人口は 19,267 人となっている。

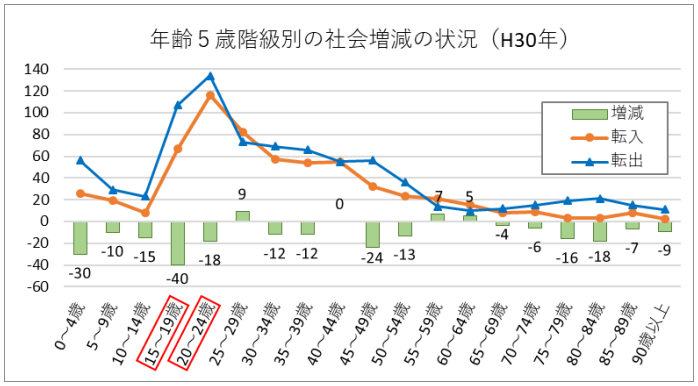


図１　住民基本台帳人口移動報告（総務省統計局）より筆者作成

年齢階級別の人口移動では、15～19 歳、20～24 歳において他の世代よりも転出が多い（図 1）。この世代は進学や就職のタイミングと重なることから、多くの人が進学や就職を機に転出していると分析できる。高校卒業後の進学にあたっては、近隣の進学先の選択肢が限られているために遠方へ転出する者がほとんどである。しかしながら、10 代後

半から 20 代においては転入も多い（図 1)。町内には、広域での転勤がある事業所や自衛隊の駐屯地があることから、就職・転勤等による町外出身者の転入が多い傾向にある。

このように、若い世代の人口移動においては、地元出身者と町外出身者が入り混じり、転出入が多いという特徴がある。そのため、人口減少を抑制するためには、結婚・子育てへとつながるこの世代と地域を結び、定住につなげる取組が重要であると考える。

（２）町民アンケートの結果からみる若者の意識

若い世代は、美幌町に住み続けることについてどのように考えているのだろうか。第 6 期美幌町総合計画基本計画（中期）策定のために実施された美幌町民まちづくりアンケート及び中高生アンケート（平成 30 年 7 月実施）の結果によると、「美幌町に住み続けたいか」という問いに、回答者全体では 76.5%が「今の場所に住み続けたい」と答えているのに対して、10 代～20 代では 62.9%、30 代では 61.3%となっており 10%ポイント以上の差がある。中高生アンケートにおいては、「美幌町に住みたい」と「一度は町外に出るかもしれないが、また戻ってきたい」を合わせると 68.9%となっている。

町外に移りたい理由として、町民アンケートの 10 代～30 代の回答では、「医療や福祉について不安があるから」が最も多く、続いて「日常生活が不便だから」、「働く場所がないまたは遠いから」が多く選ばれていた。中高生アンケートにおいては、「買い物や遊ぶ場所がないから」が最も多く、続いて「自分に合う仕事がないから」、「新しい物や情報が不足しているから」が多く選ばれていた。さらに、美幌町の良くなってほしいところとして、学生の遊び場や友人と気軽に過ごせる場所が少ないことについての意見が多く挙げられていた。

以上のことから、若い世代ほど定住意識が低い傾向にあり、その背景として「地域の生活に対する不安」や「若い世代が楽しめる場が少ない」、「若い世代にとって魅力ある仕事が少ない」といったことがあるとわかる。若い世代の定住を促進するためには、これらの要因となっている環境の改善に向けた取組が必要である。

しかしながら、地方の町においては大型商業施設や企業の誘致は現実的な策であるとは言い難い。一方で、地域には多様な資源があり、見方・考え方を変えて活かすことで魅力ある地域にしていくことは可能である。若者が地域の資源の価値に気づくためには、他者との交流・対話が重要である。美幌町には町外出身者も多く在住していることから、地元出身者と町外出身者が結びつくことでの効果は大きいと考える。例えば、町の中に若い世代が楽しく過ごせる場を設け、そこで地域の様々な人とも交流できるようにすることで次のような効果が期待できる。その場での交流をきっかけに地域でのつながりをひろげていくなかで、若い世代が地域の資源を知って地域の魅力に気づく。そこからさらに、今ある仕事を再評価したり、新たな発想で仕事を生み出したりすることにつながっていくことも考えられる。さらには、交流を通じて地域の中で助け合える関係性を育むことで、生活に対する不安の軽減につながるのではないかと考える。

（３）自治会と若い世代の関わり

旧来からの地縁による地域のコミュニティとして、美幌町には 67 の自治会がある。若い

世代と自治会の関わりはどのようになっているのだろうか。

町内の自治会では、住みよい地域づくりのため、広報紙の配布や各種回覧、福祉活動や交流活動、防犯、交通安全運動のほか、地震や水害に備えての自主防災活動など様々な活動が盛んに行われてきている。平成 31 年 3 月末時点での町内全体における自治会加入率は 72.9%となっており、とくにアパート入居者や単身世帯の加入率が低い傾向にある。

自治会連合会の幹事会等においては、役員の高齢化や担い手の不足・固定化を背景に、若い世代の加入や参画をどう促してくかが課題の一つとして挙げられている。子どもを対象とした行事に力を入れて、子育て世帯の参画を促そうとしている自治会もある。その一方で、少子化によって子どもが少なくなった自治会では子どもを対象とした行事の開催が難しくなり、子育て世帯との関わりが薄れてしまっているところもある。子どものいない若年世帯においては、加入や参画を促すための取組自体がほとんどされておらず、より関わりが薄い現状にある。

これらのことから、若い世代と自治会との関わりが薄れており、若い世代の人と地域をつなぐ場としての機能が自治会から失われつつあることが窺える。よって、若者と地域をつなぐためには違うアプローチの検討も必要であると言える。

3　Web アンケート調査

これまでの現状を踏まえて、地域の若い世代のコミュニティ及び地域のつながりをひろげる機会や場の実状を把握し、地域の若者をつなぐ交流の場づくりについて検討するため Web アンケート調査を実施した。町内の子どものいない若い世代（18 歳～35 歳）を対象とし、100 件の回答を得た（別添資料参照）。子育て世帯においては子どもをきっかけに地域のつながりを持つ者が多いことが指摘されている（日本生活協同組合連合会, 2013）ことから、本アンケートでは子どものいない人を対象とした。

（1）町に対する愛着について

41%が町への愛着を「感じている」、32%が「ある程度感じている」、14%が「どちらともいえない」、12%が「あまり感じていない」、1%が「感じていない」と回答していた(図 2)。

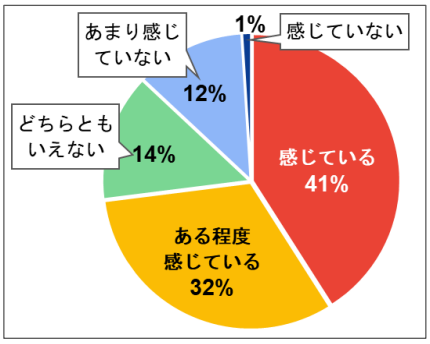


図 2　町に対する愛着について

理由（自由記述）においては、愛着を感じる理由として「自然環境」や「人の温かさ」、「人間関係」、「住みやすさ」等が挙げられていた。一方で、愛着を感じない理由として「若者が楽しめる場所、充実できるイベントが無い」、「何も無くてつまらない」等が挙げられていた。

愛着の有無の理由として挙げられたこれらの意見は、町民アンケートや中高生アンケートで町の良いところ・良くなってほしいところ等で挙げられていた意見とほぼ同様である。

若い世代の人は、自然環境や人の温かさ、住みやすさが町の良いところであると認識している一方で、若者が楽しめる場所や機会が少ないことに物足りなさや不便さを感じている

ことがわかる。

（２）自治会活動の参加状況について

自治会活動については、「加入し、内容に関係なく色々な活動になるべく参加している」は 9%にとどまり、10%が「加入し、興味のある活動にのみ参加している」、36%が「加入しているが活動には参加していない」、45%が「加入していない」であった。未加入・不参加の理由（複数回答）としては、「何をしているのかわからない」（43.2%）が最も多く、続いて「関心・興味がない」（34.6%）、「忙しく、時間に余裕がない」（30.9%）となっていた。

回答者の 8 割が自治会活動に参加しておらず、活動内容や必要性が理解されていないことが不参加の要因となっていることがわかる。

（３）町内における付き合いの状況について

「近所」と「近所を除く町内全体」における付き合いの程度と人数については図 3 及び図 4 のとおりであった。

「近所」での付き合いにおいては、「会えば挨拶を交わす」付き合いのある人は 88%の人がいると回答していた。「普段から、困りごとの相談やちょっとしたお願い事ができる」、「いざというときに助け合える」付き合いのある人は 40%程度の人がいると回答しており、「会えば挨拶を交わす」のおよそ半数であった。

「近所を除く町内全体」での付き合いでは、「近所」での付き合いと比べると、付き合いのある人数は多い。いずれの項目においても「いない」と回答した人の割合は 20%以下となっている。

また、各項目において「近所」と「近所を除く町内全体」のどちらにおいても付き合いのある人が「いない」と回答した人を集計すると図 5 の結果となった。「会えば挨拶を交わす」付き合いのある人が「いない」のはわずか 2%であったが、「普段から、困りごとの相談やちょっとしたお願いごとができる」付き合いの

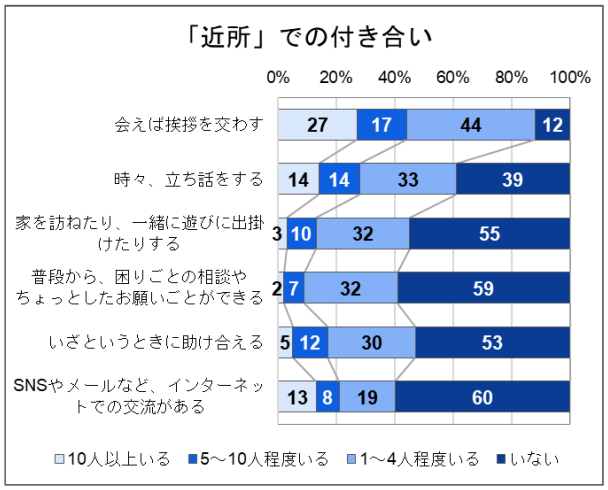


図 3　「近所」における付き合いの状況

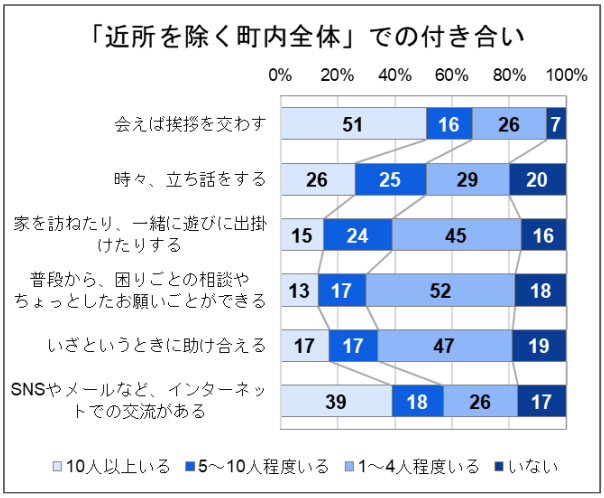


図 4　「近所を除く町内全体」における付き合いの状況

ある人が「いない」のは 15%であり、約 6 人に 1 人は困ったときに頼れる人が町内にいない状況にあることがわかる。

これらのことから、町内の若い世代の人は、近所づきあいにおいては近所の人と顔を合わす機会があり、挨拶を交わす程度の関係を築いている人が多いことがわかる。また、「近所を除く町内全体」では付き合いのある人数が増えることから、様々な活動を通して町内でのつながりを築いていることがわかる。しかしその一方で、町内での付き合いが薄く、困ったときに頼れる人がいない人が約 6 人に 1 人いることも明らかになった。

選択肢	割合
会えば挨拶を交わす	2%
時々、立ち話をする	13%
家を訪ねたり、一緒に遊びに出掛けたりする	12%
普段から、困りごとの相談やちょっとしたお願いごとができる	15%
いざというときに助け合える	13%
SNSやメールなど、インターネットでの交流がある	14%

図 5　「近所」・「近所を除く町内全体」のどちらにおいても「いない」と回答した人の割合

（4）町内において新たな知り合いができるきっかけの有無について

友人と過ごすときに「友人の友人」や「友人の知らない自分の友人」と一緒に過ごすことがあるかという問いでは、「自分から、友人が知らない自分の友人を誘うことがある」が 18%、「自分からは誘わないが、友人が自分の知らない友人を呼んで一緒に過ごすことがある」が 44%、「どちらもない（友人同士のみでしか過ごさない）」が 38%であった。

趣味や活動をとおして町内での新しい知り合いができるきっかけとなるものはあるかという問い（自由記述）では、100 人中 34 人が知り合いを増やすきっかけとなっているものを回答しており、その内容として青年団体の活動や趣味の活動などが挙げられていた。

町内に 1 人でも気軽にふらっと立ち寄ることができ、そこに集うほかの利用者と交流できる場所があるかという問い（自由記述）では、100 人中 10 人が具体的な場所を回答しており、そのほとんどが飲食店であった。

友人同士のみでしか過ごすことがないと回答しているのは 4 割以下であり、3 人に 1 人は趣味や活動をとおして新しい知り合いができるきっかけがあるという結果であった。一方で、気軽に立ち寄ってほかの利用者と交流できる場所があると回答したのは 1 割にとどまっていた。

（5）若者が気軽に集って交流できる場所の利用意向について

町内に新たに色々な若者が気軽に集って交流できる場所ができたら利用したいかという問いでは、35%が「ぜひ利用したい」、48%が「様子をみて利用したい」、9%が「どちらともいえない」、5%が「積極的に利用したいと思わない」、3%が「利用したいと思わない」と回答していた。回答者の 8 割に少なからず利用の意向があり、利用したい理由（複数選択）としては、「友人や仲間同士で使える場所が少ないから」（46.4%）が最も多く、続いて「町内に若者のたまり場が少ないから」（44%）、「普段かかわりのない町内の色々な若者と交流したいから」（38.1%）、「プライベートで自由に作業できる場所がないから」（17.9%）となっていた。

利用したい設備・機能（複数回答）では、「カフェ（飲食の提供)」(78.7%）が最も多く、続いて「フリーWi-Fi が使える」(58.4%)、「飲食物の持ち込みができる」(50.4%）が多く挙げられていた。その他の設備・機能については図 6 の結果となっていた。場所や機会があればやってみたいことがある若者は多くいると推察される。

利用したい時間については、「土日の昼間」(73.8%）が一番多く、続いて「土日の夜」(61.9%)、「平日の夜」(57.1%)であった。

利用したい設備・機能等（複数回答）

選択肢	割合
カフェ（飲食の提供)	78.7%
フリーWi-Fiが使える	58.4%
飲食物の持ち込みができる	50.6%
楽器の練習ができる	21.3%
仲間との打ち合わせに使える	19.1%
ノートPCを持ち込んで作業ができる	19.1%
町内のサークルや団体の情報が手に入る	19.1%
町内の施設・お店の情報が手に入る	18.0%
レンタルスペース	16.9%
各種教室・講座の開催	13.5%
雑貨の販売スペース	12.4%
町内のイベント情報が手に入る	12.4%
自分でつくったものを販売できるスペース	10.1%
レンタルキッチン	4.5%
その他	6.7%

図 6　利用したい機能・設備等について

（6）対話型のイベントやワークショップの参加意向について

「町内の若い世代が集まって、いろいろなテーマで話し合うイベントやワークショップがあれば参加したいか」という問いでは、13%が「ぜひ参加したい」、37%が「テーマによっては参加したい」、29%が「どちらともいえない」、6%が「積極的に参加したいと思わない」、15%が「興味がない」と回答していた。話してみたいテーマについて（自由記述）は、趣味の話、これからの町について、若者が中心になるイベントの開催についてなどが挙げられていた。

（7）Web アンケート調査からわかる課題

調査の結果、町内において挨拶を交わす程度の付き合いがない人は 100 人中 2 人にとどまり、近所を除く町内全体では、近所と比べて付き合いのある人数が増えていた。さらに、3 人に 1 人は趣味や活動をとおしてつながりをひろげる機会があり、知らない友人同士をつないでいる人の存在も明らかになった。以上の結果から、若い世代は様々な活動を通じて町内のつながりを築いていることがわかる。しかし、その一方で約 6 人に 1 人は地域のつながりが薄く、困ったときに町内に頼れる人がいない状況であることが明らかになった。また、気軽に立ち寄ってほかの利用者と交流できる場所がある人は 10 人に 1 人であったことから、町内に交流の拠点となる場所は少なく、気軽に集って交流できる場所を求める声につながっていることが窺える。

このことから、町内につながりをひろげる機会はあるものの、それらに関わるきっかけがないことで、地域でのつながりが薄い人がつながりを深められていない状況にあることが課題であると言える。

4　地域のつながりがもたらすもの

近年では、社会的な人と人とのつながりはソーシャル・キャピタル（社会関係資本）と表現され、ソーシャル・キャピタルの蓄積が住民の安心安全な暮らしにつながることが明らかにされている。アメリカの政治学者ロバート・パットナムは、ソーシャル・キャピタルを

「人々の協調行動を活発にすることにより、社会の効率性を高めることができる『信頼』『規範』『ネットワーク』といった社会組織の特徴」と定義している。また、パットナムは、ソーシャル・キャピタルには最も基本的な分類として、組織内の同質的な結びつきである内部志向的な結合型と、組織外の異質な人や組織をネットワークする外部志向的な橋渡し型があり、ソーシャル・キャピタルの形成には後者がより重要だとしている。加えて、強力な結合型には閉鎖性・排他性などの負の側面があるともしている。

内閣府国民生活局の研究（2003）では、ソーシャル・キャピタルの指標を、(1) つきあい・交流（近隣づきあいと社会的な交流）、(2) 信頼（一般的な信頼と相互信頼・相互扶助）、(3) 社会参加（地縁的活動・ボランティア・NPO ・市民活動）のデータを合成した指数により作成している。研究結果として、ソーシャル・キャピタルの蓄積は完全失業率や犯罪発生率の低下、出生率の上昇、平均余命の長さ、新規開業率の高さと関係があることが示されている。さらに、つきあい・交流、信頼、社会参加の程度が高い集団は、互いに他の構成要素を高め合う関係にあることも示されている。

また、地域住民における自発的な協調関係の成立を実現するためには、コミュニティカフェに代表される橋渡し的な場の設定を行うことで、社会的問題の解決に向けて参画する意識の醸成につながる可能性があると指摘されている（佐々木・吉田,2017)。

これらのことから、安心して心豊かに暮らせるまちづくりを進めていくうえで、ソーシャル・キャピタルの醸成が重要な鍵となることがわかる。なかでも、ソーシャル・キャピタルの形成には橋渡し型がより重要とされていることから、様々な人とのつながりをひろげられる場づくりを進めることが必要であると言える。

５　課題解決に向けて

（１）若者をつなげるきっかけづくり

Web アンケート調査の結果において、気軽に立ち寄ってほかの利用者と交流できる場所がある人は 10 人に 1 人であり、気軽に集って交流できる場所については回答者の 8 割に少なからず利用の意向があった。このことから、美幌町においては、若者の交流拠点となる場づくりを行うことで若者のつながりを促進できる可能性が高いと言えよう。また、先行研究からは、地域でのつながりの構築が地域でのより良い生活につながること、様々な人をつなげる橋渡し的な場が重要であることを学んだ。しかしながら、交流のきっかけとなる機会や場づくりにあたって最も重要となるのは、そこに足を運んでもらうきっかけづくりである。

先駆的現地調査では福岡県と佐賀県の様々な場所を訪問した。地域とのつながりや人と人を結ぶきっかけづくりを意識した場づくりが多くのところで行われており、そこで出会った人々が結びついて様々な動きが新たに生まれていた。例えば、武雄市図書館では、図書館に足を運んでもらうきっかけとして年間に 1,700 もの講座･イベントが開催されている。これらは開けた空間で行われており、その場に居合わせた来館者の関心を引くことによって新たな参加者の呼び込みを図っている。また、講師を地域の人に担ってもらうことで、地域の人をつなぐ役割も果たしている。さらに、講座等に参加した者同士でのつながりの構築や、図書館以外で行われている講座への参加につながっているという話も伺った。

図 7　美幌町民会館

（2）具体的な取組の提言

美幌町における若者をつなげる場づくりの取組として次のとおり提案する。

①若者の主体的な活動を支援

Web アンケート調査において、困ったときに頼れる人がいない人の存在が明らかになったことから、地域のつながりの薄い若者がつながりをつくるきっかけとなる場づくりが必要であると考える。

実際に、筆者が所属している町内の青年活動団体において、地域のつながりが薄い社会人を主な対象とした交流の場づくりに向けた検討が進められている。現在の案は、2 か月に 1 回、町民会館の小ホールを借りて若者のたまり場として開放し、様々な企画で交流を図るという内容である。町民会館であれば、町の中心部にあってアクセスが良く、近隣で購入した飲食物の持ち込みが可能である。休日の利用が可能で、Wi-Fi も整備されている。必要な設備はある程度整っており、若者の交流拠点を設ける場所として適していると言える。

しかし、最も重要となるのは足を運ぶきっかけづくりである。Web アンケートの回答者の中だけでも音楽、料理、木工など多様な趣味を持っている人がいた。これらに関連する催しを行うことで足を運んでもらい、趣味や興味の共通点をきっかけにしたつながりづくりができると考える。実施にあたっては、地域の若者がプレゼンターになって自分の好きなもの・ことをテーマに企画を行い、参加者を巻き込んで一緒に楽しめる内容がよいと考える。実際に青年団体の仲間に提案してみたところ、講師を担うのはハードルが高いがプレゼンターであればできそうだという声が多かった。「自分の好きな映画を一緒に見て、その後に作品について語り合いたい」など具体的な案が出ており、実現可能性は高い。

このように、若者の交流の場づくりに向けて動いている主体があることから、行政が直接的に若者の交流拠点づくりを行う必要性は極めて薄いと考える。先述の青年活動団体は、現在、町の社会教育事業による支援を受けている。地域の若者が主体的に場づくりに取り組もうとする動きが出てきたことは、これまで町が行ってきた社会教育事業の成果と言えよう。

このことから、行政としては、地域の様々な若者による主体的かつ幅広い活動を支援するため、地域の多様な資源とつながるきっかけづくりや各種情報の提供を行っていくことが必要であると考える。

②民間のレンタルスペースの利用促進

実施した Web アンケートの回答で、仲間内で使えるスペースが少ないという声が多く挙げられていた。レンタルスペースは、仲間同士での交流や、主体的に何かを企画・実行する際にあると便利な場所であることから、今あるつながりを深める場や主体的な活動を支える場として有効な場所である。実際のところ、町内には民間が運営するレンタルスペースがいくつかあるが、運営者に話を聞くと利用者は限定的とのことだった。これらは、普段は「こども食堂」として使用されている場所や、商店街の展示会や講習会などで使用されている場

所である。レンタルスペース以外の用途で使われることが多い場所であることから、個人でも使用できるレンタルスペースとしてはあまり知られていないようである。使用方法や料金、設備などについては特に公開されていない。そのため、詳細は所有者に連絡を取って確認しなければならず、利用のハードルは低いとは言えない状況である。また、存在を知っていても、個人で使用する場合の具体的な使い方がイメージできなければ利用につながらない。

利用促進にあたっては、まずは、レンタルスペースの所有者自身が利用方法や利用可能な設備についてきちんと情報を公開することで、利用のハードルを下げていくことが必要であろう。行政においては、運営者が作成したパンフレットやチラシをもとに若者が集まる場や機会において情報提供をしていくことで利用促進の支援ができると考える。情報を求めている人に適切に提供することができれば、仲間内や個人で気軽に使える場所を求めている若者の今あるつながりを深めるとともに、主体的な活動を支援することにつながる。

③町民主催のイベント情報の発信

町内には様々な催しを行っている個人や団体がいるが、これらのイベントについては情報が一元化されておらず、後から開催されていたことを知ることも多い。さらに、自治会で行われている催しの多くは自治会加入者のみの回覧で周知されていることから、未加入者に情報が伝わらず、何をしているのかわからないという声につながっている。特に町外出身者にとって、町内のイベントに足を運ぶことは、町のことや住民の顔を知る機会として重要である。

現在、町内や近隣市町村において情報発信に取り組んでいる民間の主体があることから、これらとの連携・情報共有により、よりよい情報発信に取り組んでいく必要があると考える。情報を得やすくすることで、町民が各種イベントに参加しやすくなり、地域のつながりをひろげるきっかけになると考える。

④若者を対象とした対話型イベントの開催

対話型のイベントやワークショップについては、Web アンケートの回答者の約半数に参加の意向があった。「テーマによっては参加したい」が 37%と最も高いことから、多くの参加者は見込めない可能性が高いものの、テーマ設定によってはある程度関心を得られることがわかった。対話型のイベントやワークショップによるつながりづくりは、「すでに地域でのつながりはあるが、さらにつながりをひろげたい」、「色々な考え方・価値観に触れたい」という若者をつなげる場として有効であると考える。「新たな町のイベント」や「若者が望む住みよいまちづくり」などをテーマとして設定し、お茶やお菓子を楽しみながらワールド・カフェ方式で行うことで、対話をしながらゆるやかに交流できるのではないだろうか。ワールド・カフェとは、リラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行うものである。時間の中でメンバーの組み合わせを変えながら、小人数のグループで話し合いを行う。多くの参加者同士が話をすることができるという特徴があることから、様々な参加者と気楽に対話ができる手法として適していると考える。

実施にあたっては、行政が事務局となって町の若者を中心とした実行委員会を立ち上げ、年に複数回行う。若者が運営主体となることで若者目線でのテーマ設定や場づくりができ、参加のハードルを下げることにつながる。また、テーマを変えて複数回行うことで、多様な参加者を呼び込むことができると考える。さらに、このようなイベントの参加者は、初対面の人と話し合うことへの抵抗感が低いと考えられる。テーマに関連する地域の多世代を参加者に加えることで、多世代のつながりづくりを行うことも可能ではないだろうか。様々な人と対話することで多様な考え方に触れるとともに、地域の資源を知り、新たな気づきを得られる場になるだろう。

６　おわりに

今回、地域の若者をつなげるための場づくりをテーマに、町内の子どものいない若い世代を対象にした Web アンケート調査を行い、本稿を作成した。当初、町内の若者は仲間内だけで過ごすことが多く、つながりを広げる機会は少ないのではないかと予想していた。実際は、地域での様々な活動をきっかけに地域のつながりを構築しており、知らない友人同士をつなげている人の存在も明らかになった。その一方で、約 6 人に 1 人は町内に頼れる人がいないという結果は衝撃的であった。Web アンケート調査は、筆者の知人を介しての配布であったことから回答者に偏りがないとは言えないが、あまり把握できていない地域の若者の実状について、100 人分のデータを取れたことはとても意味のあることだと感じている。

実際に若者をつなぐ場づくりを進めていくにあたってはまだまだ課題があり、思うように進まないことも多いだろう。町の中に若者が楽しく過ごせる場や機会を増やしていくことで、地域の人と人を結び、若者が住み続けたいと思えるまちになっていくことを願っている。町に暮らす若者の一人として、まずは自分から「美幌町でもこんなことができる」ということを青年活動団体の仲間とともに行動で示していきたい。さらに、地域の色々な若者と交流するなかで、若者の「やってみたい」を引き出し、チャレンジの後押しをすることでその輪をひろげていけたらとも考えている。

本稿においては若者を中心とした課題を取り上げたが、当然のことながら地域の課題は他にもある。積極的に地域の色々な場に赴いて、つながりをつくりながら地域と向き合い、行政職員として、地域の一住民として、両方の立場から主体的に地域づくりに取り組んでいきたい。

【参考文献・ホームページ】

・飯盛義徳（2015）『地域づくりのプラットフォーム』学芸出版社
・片岡亜紀子、石山恒貴（2017）「地域コミュニティにおけるサードプレイスの役割と効果」『地域イノベーション』第 9 号
・佐々木浩子、吉田修大(2017)「地域住民における地域社会とのつながり感に関する意識調査：ソーシャル・キャピタルの概念定義を基にした考察」『北翔大学北方圏学術情報センター年報』9 巻
・総務省統計局（2019）「住民基本台帳人口移動報告」

・内閣府国民生活局（2003）『平成 14 年度 ソーシャル・キャピタル：豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて』
・日本生活協同組合連合会（2013）「「地域のコミュニティと交流」に関する調査」
・美幌町（2018）「美幌町民まちづくりアンケート」
・美幌町（2018）「中高生アンケート」
・ダイナミクス・オブ・ダイアログ合同会社「ワールド・カフェとは？」『WORLD-CAFE.NET』http://world-cafe.net/about/（2019 年 12 月 27 日アクセス）

別添資料　美幌町内における若者のコミュニティの状況に関する調査　集計結果

調査期間：令和元年 12 月 12 日～令和元年 12 月 21 日
調査対象：美幌町内の子どものいない若い世代（18～35 歳）
実施方法：アンケートフォームを作成し、筆者の知人を介して該当者へ URL を周知、実施した
（一部回答者については紙媒体で配布、回収した）
回答件数：100 件

①美幌町に住んで何年になりますか
（過去に住んでいて美幌町に戻ってきた場合には
過去と現在の合計年数でお答えください）

	割合
1年未満	3%
1～3年未満	8%
3～5年未満	8%
5～10年未満	9%
10年以上	72%

②美幌町に愛着を感じていますか

	割合
感じている	41%
ある程度感じている	32%
どちらともいえない	14%
あまり感じていない	12%
感じていない	1%

②－２【どんなところに愛着を感じているのか、愛着を感じていない理由】
□「感じている」「ある程度感じている」を選択した人の回答

意外と飲み屋が多い。
適度に田舎だが、不便しないところ
人、自然
静かで暮らしやすいところ
生まれた時からずっと住んでいる町だから
生まれ育った町でもあり、住みやすい町だと思ってます。
アットホームな雰囲気
遠出して、美幌のカントリーサインを見た時もう直ぐ家に着くぞって思った時
町民参加型の行事が多く町民同士のコミュニティーが広い
住みやすい
アットホームな感じに愛着があります。
自然が綺麗
色々な施設がコンパクトにまとまっていて住みやすい
友人がいるところ
住みやすい（7 人）
長閑な感じ
自然が多い事と、散歩するには最適な距離、夜中に見る空が綺麗、空気が綺麗だったりする所が愛着を感じています。
生まれてからずっと住んでいる町だから
景色
行き慣れたスーパー
肉親や友人が住んでいるから、 様々な思い出がこの町にあるから
町内の人と触れ合うところがたくさんあるから
仕事やプライベートで知り合いが増え、街中で声をかけてもらえる回数が増えてきたためです。
見慣れた景色や、行きつけの喫茶店があることやある程度のお店が揃っているところに愛着を感じています。逆に、農村地区に光回線が来てないことや舗装もあまり管理されていなく、町の中心部との差があるように感じるのがあり、その点は愛着を感じていません。
地元が好きだから
町民同士の仲が良いように感じる
ご飯屋さんもあるし買い物も近場に北見があるから不便じゃない
住み心地の良さ

友達が多い
美幌から離れたくない
景色が綺麗
良い街であるため
景色が綺麗。友人が多い。
自然豊かなところ！
てんこうえんがあるから
景色、自然
町の雰囲気
故郷だから。家族や仲間がいるから。
自然豊かで、落ち着いた雰囲気な所。
生まれて育った地なので自然と愛着があります。普段の生活に必要なお店・施設等が一通りあるので住みやすいと思っています。
昔からのお店がなくなってない
住みやすい、知り合いが多い
住みやすい、人が暖かい。
落ち着く場所
生活する分でのお店にはあまり困らないし、バスが 100 円で乗れるというのも魅力的。
衣食住に困らず、人もいい人が多いと思います。しかし町や、青年団体の乱立、青年団体の参加人物の重複、イベントの同日重複など、活動が空回りしていると思うことが時々あり、そこには愛着が持てません。
ずっと美幌に住んでいるので、学校や通学路を見ると懐かしく感じ愛着がある
住みやすさ、人のあたたかさ、人の繋がり
町民の温かさ
生まれ育ち、住みやすい町だから

□「どちらともいえない」を選択した人の回答

美幌の人たちとの交流はあるが、新しい関係は望んでいないので
住みやすい
美幌には友達もいないので実家のある北見に帰ることが多くなかなか美幌に馴染まないのが正直なところです。ですが、職員の皆さんが優しいので美幌の飲み屋など連れて行ってもらうことが多く、最近では美幌素敵だなと思うことが増えました。
商業施設がない。
住み始めて間もない為
実家に帰るだけだから

□「あまり感じていない」「感じていない」を選択した人の回答

実家が北見の為、美幌で遊ぶことがなかった。
何も無くてつまらない
勤務先が町内ではないので特にこだわりがない
町外れに住んでいるため
買い物が不便。娯楽施設が少なく、北見や網走まで行かなくてはならないから。
若者が楽しめる場所、充実できるイベントが無い

③あなたは自治会に加入・自治会活動への参加をしていますか
※「会費の支払いと回覧文書を次の家に届けているのみ」や「世帯として加入しているが自分は活動に参加していない」場合には「加入しているが活動には参加していない」を選択してください

	割合
加入し、内容に関係なく色々な活動になるべく参加している	9%
加入し、興味のある活動にのみ参加している	10%
加入しているが活動には参加していない	36%
加入していない	45%

④　③について、「加入していない」、「活動に参加していない」理由を教えてください（複数回答）

	割合
何をしているのかわからない	43.2%
関心・興味がない	34.6%
忙しく、時間に余裕がない	30.9%
活動時間や日程があわない	14.8%
班長や役員の仕事がまわってくると大変だから	9.9%
地区に仲の良い知り合いがおらず参加しづらい	8.6%
参加する必要性を感じない	7.4%
地域の人との関わりを望んでいない	3.7%
その他	7.4%

【その他の内容】
・親が活動に参加しているため、自分が参加する必要性を感じない（3.7%）
・独り身だから
・家族が活動に参加しているため、同世帯で暮らす私は不参加が多いです
・案内が来ない

⑤町内に次のような付き合いのある人はいますか。「近所」及び「近所を除く町内全体」での付き合いについて、それぞれ、次の選択肢から最も近いものを１つ選んで記入してください。

	近所				近所を除く町内全体			
	10人以上いる	5～10人程度いる	1～4人程度いる	いない	10人以上いる	5～10人程度いる	1～4人程度いる	いない
会えば挨拶を交わす	27%	17%	44%	12%	51%	16%	26%	7%
時々、立ち話をする	14%	14%	33%	39%	26%	25%	29%	20%
家を訪ねたり、一緒に遊びに出掛けたりする	3%	10%	32%	55%	15%	24%	45%	16%
普段から、困りごとの相談やちょっとしたお願いごとができる	2%	7%	32%	59%	13%	17%	52%	18%
いざというときに助け合える	5%	12%	30%	53%	17%	17%	47%	19%
SNSやメールなど、インターネットでの交流がある	13%	8%	19%	60%	39%	18%	26%	17%

⑥あなたが、SNSなどのインターネットでのやりとり以外に、友人と直接会って話をする機会はどの程度ありますか

	割合
週に１回以上	32%
月に数回	38%
２～３か月に数回	15%
半年に数回	3%
年に数回	12%
ほとんどない	0%

⑦あなたは、友人と過ごすときに、「友人の友人」や「友人の知らない自分の友人」も誘って一緒に遊んだり、飲みに出かけたりすることがありますか

	割合
自分から、友人が知らない自分の友人を誘うことがある	18%
自分からは誘わないが、友人が自分の知らない友人を呼んで一緒に過ごすことがある	44%
どちらもない（友人同士のみでしか過ごさない）	38%

⑧美幌町内で、趣味や活動をとおして町内での新しい知り合いができるきっかけとなるものはありますか。あなたが参加している活動やイベントなどで、あなたにとってのきっかけになっているものがあれば記入願います。（複数あれば複数記入）　（回答者数 34 人）

・車やバイク　・音楽関係　・B-live(5 人)　・アプリゲーム(ポケモンＧＯ)　・趣味サークル　・サークル　・美幌町青年活動団体 B-live　・美幌ローターアクトクラブ　・バンド、青年団体　・街コン(2 人)　・青年団体(2 人)　・朗読会、ボランティア　・JA 青年部、B-live、演劇集団タカクト、玉入れチームビホログリーンロケッツ、社会教育奨励委員の活動への参加　・お祭り等のイベント　・子供食堂・青年活動団体、演劇　・クラブ活動　・ビールパーティー　・町のイベントスタッフ・撮影仲間、テニス仲間など　・ソフトテニス　・そば打ち同好会(高校の時)　・各青年団体に所属、まちゼミ、サークル、ビールパーティー、教育委員会の活動など　・ボランティア・びほろ愛し隊、美幌観光物産大使の TRIPLANE 関係　・スノーボード、ヨガ　・青少年団体活動、札幌ビール会など　・少年団の指導

⑨ －１　美幌町内に、あなたが１人でも気軽にふらっと立ち寄れる場所はありますか。思い当たる場所があれば、具体的な施設名や店名を記入願います。（複数あれば複数記入）　（回答者数 47 人）

・コンビニ、TSUTAYA、ゲオ、スーパー　・OZIKO　・ボレアス、さくら　・そばのかね久、TSUTAYA、GEO　・図書館、しゃきっとプラザ、スポーツセンター　・山岡家　・図書館、スポーツセンター　・峠の湯　・図書館（5 人）　・マナセン、町民会館　・スナックアミーゴ　・TSUTAYA（3 人）　・図書館、カラオケ　・図書館、お店　・図書館、もりぐんて、スナックさくら、カフェなごりゆき、喫茶店「ん」、えるぴすその他飲食店　・プチパーティー　・喫茶店えるぴす（3 人）　・図書館。意外と古い絵本や最新の書籍まで揃っているし、館内のスタッフさんの応対が丁寧だし非常に利用しやすい　・しゃきっとプラザ（3 人）　・ラーメン屋　・コンビニ（6 人）　・7.iro（雑貨屋）、美幌駅、イースタイル　・ファインズ　・多数　・ひかりや書店、加賀屋、もりぐんて、ふらっとホームさらら、しゃきプラ、ワンダー　等々　・ぽっぽや、えるぴす　・図書館、 花邑　・BAR など　・ゲオ、TSUTAYA、ホーマック、歌屋、しまむら、スーパー、サツドラ　・フラットホームさらら 、図書館　・図書館、ライフインビホロ　・山岡家

⑨－２　⑨－１の中で、そこに集う人達（ほかの利用者）と交流できる場所があれば再度記入してください　（回答者数 10 人）

・OZIKO　・さくら　・居酒屋　・もりぐんて、スナックさくら　・プチパーティー　・イースタイル、7.iro　・ジム　・イベントが多い　・加賀屋、もりぐんて、さらら、ワンダー　・カラオケ

⑩－１　美幌町内に、新たに色々な若者が気軽に集って交流できる場所ができたら利用したいと思いますか

	割合
ぜひ利用したい	35%
様子をみて利用したい	48%
どちらともいえない	9%
積極的に利用したいと思わない	5%
利用したいと思わない	3%

⑩－２　利用したいと思う理由を教えてください（複数回答）

	割合	【その他の内容】
友人や仲間同士で気軽に使える場所が少ないから	46.4%	・大人になると気軽に遊べる人がいないから
町内に若者のたまり場が少ないから	44.0%	
普段かかわりのない町内の色々な若者と交流したいから	38.1%	
プライベートで自由に作業ができる場所が少ないから	17.9%	
その他	1.2%	

⑩－３　利用したい設備・機能等を教えてください（複数回答）

	割合	【その他の内容】
カフェ（飲食の提供）	78.7%	・フリーマーケット的な場所
フリーWi-Fiが使える	58.4%	・歌ってみた、踊ってみた等の簡易録音や撮影ができるスタジオ
飲食物の持ち込みができる	50.6%	・ファストフード店
楽器の練習ができる	21.3%	・娯楽施設、ダーツやビリヤードなどができる施設
町内の施設・お店の情報が手に入る	18.0%	・楽器のレンタル
レンタルスペース	16.9%	・無料駐車場
ノートPCを持ち込んで作業ができる	19.1%	
町内のサークルや団体の情報が手に入る	19.1%	
仲間との打ち合わせに使える	19.1%	
各種教室・講座の開催	13.5%	
雑貨の販売スペース	12.4%	
町内のイベント情報が手に入る	12.4%	
自分でつくったものを販売できるスペース	10.1%	
レンタルキッチン	4.5%	
その他	6.7%	

【レンタルスペースを選択した人→何に使いたいですか？】(回答者数 14 人)

・サークル活動　・若者が集まれる場所　・ボードゲーム、アナログゲーム　・趣味活動　・DVD を大勢で見たい　・作業場、コワーキング　・バンド　・音楽の練習　・会議　・誕生日会など　・コスプレをしているので、気兼ねなくコスプレの撮影ができる場所が欲しいです　・家では出来ない作業　・友人との集いの場　・団体の活動、会議

【レンタルキッチンを選択した人→お試しでカフェ・居酒屋ができるとしたら出店してみたいですか】

	人数
はい	7
いいえ	13

※⑩－３にて「レンタルキッチン」の選択者数（4 人）と回答者数が不一致のため、レンタルキッチンを希望していない者が回答している可能性あり

【自分でつくったものを販売できるスペースを選択した人→何を売ってみたいですか】(回答者数 9 人)

・手芸　・木工作品　・キーホルダー、シュシュ　・アクセサリーやイラスト等小物　・自分で撮った写真など、ポストカード　・ビートボックス用品　・個人がデザインした柄を入れた様々な品物　・フリーマーケット　・アクセサリー、よだれかけ

【各種教室・講座の開催を選択した人→どんな内容のものに参加したいですか】(回答者数 8 人)

・楽器演奏、語学　・英会話（3 人）　・裁縫　・ヨガ、簡単な運動　・興味があること、興味がないこと、どちらでもいいですが気軽に参加できそうな、敷居の低いものがいいです　・ヨガ

⑩－４利用したい時間を教えてください（複数回答）

	割合
平日の朝	2.4%
平日の昼間	10.7%
平日の夜	57.1%
土日の朝	13.1%
土日の昼間	73.8%
土日の夜	61.9%

⑪美幌町内の若い世代の人が集まって、いろいろなテーマで話し合うイベントやワークショップがあれば参加したいと思いますか

	割合
ぜひ参加したい	13%
テーマによっては参加したい	37%
どちらともいえない	29%
積極的に参加したいと思わない	6%
興味がない	15%

【話してみたいテーマがあれば記入してください】(回答者数 18 人)

・年齢制限の無い忘年会、新年会　・スポーツ関係（2 人）　・特にないが、ある程度興味があれば
・みんなで集まってしたいこと　・趣味の話（2 人）　・図書館の利用を増やすためにどうするか、これからの町について、農業　・多様性、異なる文化　・町民が住みやすい町にするにはどうしたらいいかということの全般的なこと　・コスプレイベント増やしたい。ボランティア活動について。もっと地域密着した活動を増やす為に　・若者が中心になるイベントの開催　・美幌を発展させるための話し合い　・ゲーム　・HIPHOP　・普段何しているか
・テーマではなくなってしまうのですが、過去に話し合いやワークショップに参加したことがあり、その時は有意義な時間を過ごせました。しかしそれから進捗がなかったり、形にならないことが多いと思います。後やるからには小規模なイベントではなく、何か大きなイベントや施設を成し遂げたいです。美幌町・様々な団体・商工会など分け隔てなく多くの人が主になり、それにつられてあまり町に出ない若い世代の人も参加する。きっかけやテーマは何でもよく、そんな形になればいいなと思っております。願望になり申し訳ありません。　・美幌町の財政、ビジョンについて

【参加したくない理由を記入してください】(回答者数 13 人)

・ワークショップ苦手だから　・興味が無い（3 人）　・話すだけではつまらない　・関心が薄いため
・自分の時間を大事にしたい　・活性化してないから　・面識のない人との話し合いが苦手　・話す事がない　・よそ者はいれたくない。仲間以外は寄せ付けない人が多い。　・めんどくさいです
・集まるメンバーは SNS 等によく出てくる人で、限られていると思うため。それにより、意見もすでにそのメンバーに偏っていそう。共感したいと思える意見に出会えるか、期待が持てない。しっかり学んだ人の根拠のある話を聞きたい。